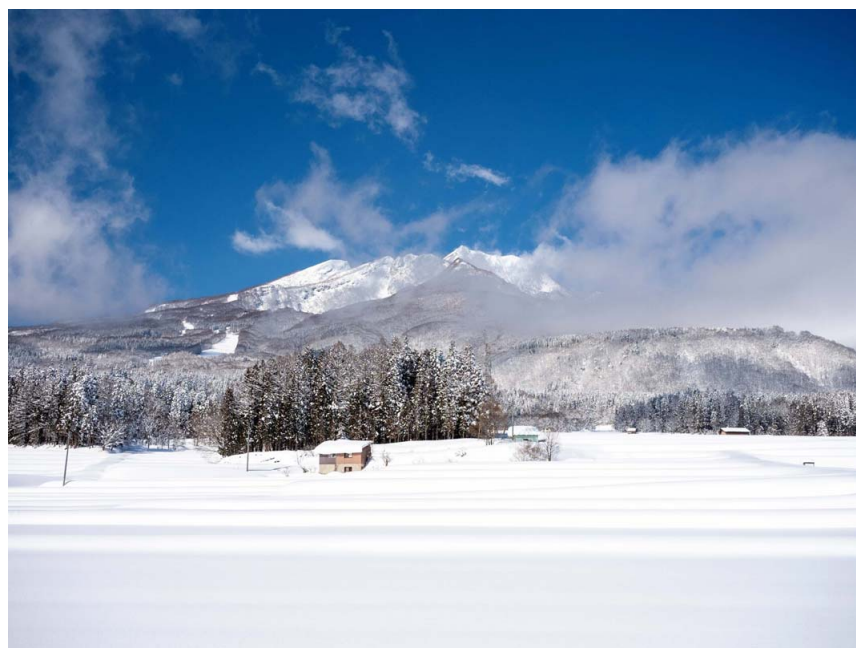




小さな沢は雪に埋もれて一筋のくぼみを残す(右上)
 杉野沢から見た妙高山。新潟には珍しい開放感のある山の
 風景が気持ちいい(右下)
 関川の関所跡に架かる一ノ橋から関川を望む(左上)
 風が吹くと青空に雪の粒が輝きながら広がっていく(左下)

さえ渡る 白と青の世界

妙高高原に雪がどっさり降った直後の晴天は、目に刺さるようなホワイト&ブルーの世界。この川紀行シリーズは流域の住人取材させてもらうことが多いのだが、こんな日は何を置いても風景撮影だ。

朝一番に関川の関所跡を訪れる。川を渡る一ノ橋(長寿橋)は雪が欄干の高さまで積もっていて、渡るのにかんじきが必須。橋から見下ろす関川は、川の中の石にも雪が積もって水玉模様だ。すぐ脇を北しなの線の列車が雪煙をあげて通過する。撮り鉄さんも国道18号の高い橋の上から狙っているのが見えた。

どんどん天気が良くなってきたので、撮影場所を変え杉野沢方面へ。妙高山は裾野に広がる棚田が真っ白な階段状になっていて美しい。

ちょっとかんじきを履いて森の中へ入ってみた。きれいに積もった雪の起伏に樹木の影が落ちて、足跡を付けるのがもったいないくらい。木の枝に留まっていた雪が、あちらこちらから落ちてきて、それが下の枝に当たって散り、地面に届くころには雪煙になって広がる。時々頭に直撃を受けるが、こんな日はそれも気持ちがいいものだ。風が吹くと枝から飛んだ雪が舞い、青空に星のように輝く。次から次へと目に入ってくるシーンに、写真のショット数はどんどん増えていった。